



ニュースレター No.35 2000年(平成12年)6月

# NEWSLETTER

INTERNATIONAL LAKE ENVIRONMENT COMMITTEE FOUNDATION

財団法人 国際湖沼環境委員会

— よりよい湖沼管理をめざして —

このニュースレターには英語版もあります。

## 科学委員会緊急ビューローミーティング ILECの今後の取り組みを協議



科学委員会ビューローミーティング風景

**1** ILEC 科学委員会緊急ビューローミーティングが開催されました。ここでは、今後のプロジェクトに果すべき科学委員の役割を協議すると共に、2000年4月に滋賀県の津江市で開催されたG8環境大臣会合に際して扱われるべき淡水問題についても検討されました。今後の ILEC プロジェクトに関しては、ILEC 発行のジャーナルに Lake99 出席者の寄稿をもっと取り入れること、ジャーナル発行資金確保など多くの点についても話し合われました。また、2001年に予定されている琵琶湖での次期湖沼会議「びわこ 2001」については、湖沼会議直前に過去10回に及ぶJICA湖沼保全コースに参加した研修生達を集めて

3週間の研修を開いたり、“世界水パートナーシップ会議”を同じ時期に開催することについても議論されました。

### 新

ガイドラインシリーズには“富栄養化”と“温暖化”の2つが加わることになりました。新シリーズ発行に当たっては、出版と販売を任せる出版会社を獲得してはどの案が出されました。世界の湖沼白書として世界の代表的な25の湖沼に的をしぼって調査研究を始めることとなり、対象湖沼の選定につき ILEC 科学委員全員に意見を聞くことになりました。

おそらく、ミーティングで話し合われた後、もっとも重要な課題は G8 に向けた淡水問題であったと思われます。世

界中で淡水が危機に直面していますが、残念なことに政治家は主要な国際的議題として考えていませんでした。国民が自らも開発による汚染にさらされているといった事実やそれについての知識を十分に与えられてこなかったことが最大の理由なのです。(そのことについては、本注記事中の世界の湖沼に記載)

**I** ILEC 科学委員は滋賀で開催される G8 環境大臣会合にこの緊急ビューローミーティングでの検討結果が一定の影響を与えることを期待しています。なお、G8 環境大臣会合の提言は P.2 に掲載しています。次号には、この提言に対する成果としての関連記事を掲載できればと考えています。

### 今回の話題

- ・第二回世界水フォーラム……………2
- ・G8 環境大臣会談……………2
- ・UNEP 事務局長の滋賀と大阪訪問…3
- ・ILEC 活動(1997~1999)……………5
- ・世界環境デー記念式典……………7
- ・新刊案内および今後の会議……………8
- ・第3回リビングレイクス会議……………2
- ・新所長、新事務局長の紹介……………3
- ・西ノ湖とヨシ……………4
- ・世界の湖沼(モノ湖)……………6
- ・ILEC/JICA 研修員の視点……………7
- ・世界湖沼会議(琵琶湖 2001)……………8

# 会 議

## 第2回世界水フォーラム

2000年3月17日から22日の間、ハーグで開催された第2回世界水フォーラムにおいて、水資源の持続可能な利用の実現に向けて必要とされる活動に焦点が当てられました。当フォーラムに出席した世界各地の代表者がそれぞれの地域状況を説明する論文発表を行うと共に、水利用、主要な共同取組みおよび都市計画と水利用に関する管理のあり方といった特別課題についても意見が交わされました。ILEC 科学委員であるW.D.ウイリアム教授が同会議で発表した論文の要約は次のとおりです。なお、第2回世界水フォーラム

についての詳細は、次号にてお知らせする予定です。

**世** 界の乾燥化が進んでいます、すなわち強度乾燥地帯から半湿潤地帯にかけて、および温暖温帯から熱帯にかけて、いわゆる“乾燥化”が全土地面積のほとんど50%にも及んでいます。このような地域の人口は10億人に達しており、同時に水不足が関連してくる一方、そこには世界でも大きい類に入る湖沼がいくつか存在します。それらの湖沼は淡水湖沼、一時の淡水湖沼、および塩湖などの様々

なタイプに分けられますが、その陸水学的特徴は、よく知られているような温帯でかつ湿潤な地域に存在する湖沼とはかなり異なってきます。経済面においても、学術的および生態学的な側面においても重要性をもつにもかかわらず、乾燥化した地域の湖沼は広範囲でかつ集中的な人為的影響を受け姿を変えています。このような現象は、温帯、熱帯、亜熱帯を問わず惹起されてきています。更に、乾燥化している地帯の湖沼にみられる特色として、塩分濃度の上昇があげられます。しかしながら、このような人為的影響とそのことがもたらす深刻な問題は、国民レベルおよび国際レベルでもいまだ十分に認識されていません。

## 第3回リビングレイクス会議

第3回リビングレイクス会議が「小川の復元と湖沼を回復させる地域社会」というテーマで1999年10月1～4日にかけてアメリカ合衆国カルフォルニア州リーバイニングのモノ湖畔にて開催されました。その構成は、ワークショップ、内部打合せ、現地視察というものでした。ワークショップの議題は①パートナーシップの効果②持続可能な地域社会

③経済発展と復元④リビングレイクス・ネットワークです。

**内** 部打合せでは Nerfork(英国)、Tengiz湖(カザフスタン)、死海(ヨルダン、イスラエルとパキスタン)、Militsch 池(ポーランド)、Chiquitamar(アルゼンチン)のリビングレイ

クスへの加入が了承されました。そして、ILECを含めたメンバー達は、世界湖沼憲章、リビングレイクス決議文、ネットワークの構築と将来の活動などの議題について議論し合いました。次回のリビングレイクス会議は、2000年ハノーバー万博にあわせてハノーバーにて開催され、引き続いて2000年11月に日本の滋賀県で開催される予定です。

## 滋賀県大津市でG8環境大臣会議が開催

世界的な淡水の危機について討議するため、1999年の11月29日から12月1日の期間、滋賀県において、国際湖沼環境委員会の科学委員会が開催されました。声明書が立案され、そして会議の準備を担当していた滋賀県知事を通して、日本の環境庁長官へ提出されました。次に示す事項が声明書のハイライトです。全世界が淡水の量と品質で世界的な危機に直面します。淡水の危機は、すべての国の経済そして国民の健康の両方に影響を与えます。  
・淡水の不足がすべての国における開発を阻害します。  
・水系で感染する病気は健康障害を増やします。そして、職場において、病気になるいは亡くなった方への経済支援に加えてヘルスケアのコストは増加します。  
・環境ホルモンが陸及び水環境中に撒き散らされ、環境ホルモンは人

間そして野生生物の健康に大きな危険となります。淡水の不足が農産物の世界的な貿易に重要な意味を持っています。科学者は十分に淡水の危機に気づいていません。しかし、世論と政策の対応が遅れてしまいました。  
・最近 UNEP が行った 50 の国の 200 人の専門家の環境課題調査において、淡水の不足は気候変動を除くと他の環境問題より重要と位置付けられました。環境の反応は、先を見通さなければなりません。  
・環境問題の経験は、防止策を実施することのほうが、改善策を実施するより、安価であることを示しています。  
・速やかな対処がないと、問題はもっと悪化し、そして解決することが一層困難となるでしょう。汚染物質の確認は問題を解くことにおける第一歩です。  
・給水のための適切なインフラについて、十分なインフォメーション

が無いと、公衆衛生を広めることは出来ません。  
・水質測定のコストは、技術革新によって際立って減ってきました。  
・現在の国際的なモニタリングの作業が大いに改善されます。私たちは G8 の環境大臣たちが以下の事項を解決し、国家的そして国際的な革新的モニタリング計画を支援することを勧めます。  
・淡水資源の一層集中的、包括的なアセスメントの規定  
・緊急に富栄養化と有毒な化学薬品の排出の結果として生じている世界的な水質汚染問題や次の課題に関心が払われるべきです。  
・例えば湖の深部の水温の暖化を通して、気候変化による世界的な淡水資源における基本的変化のアセスメントを可能とする  
・水問題についての教育そして情報宣伝を改善する新しい方法の模索  
私たちは、次のニューズレターで会議のリポートを掲載する予定です。











## 第9回 世界湖沼会議

第9回世界湖沼会議が2001年11月11日～16日に滋賀県で開催されます。会議のテーマは「湖沼をめぐる命といとなみへのパートナーシップ ～地球淡水資源の保全と回復の実現に向けて～」です。分科会構成等については、近々公式アナウンスされる予定です。

詳細についての連絡先：滋賀県庁琵琶湖環境部環境政策課  
〒520-8577 滋賀県大津市京町 4-1-1

Tel: 077-528-3466 Fax: 077-528-4849

E-mail: lake2001@pref.shiga.jp

ホームページ: <http://www.pref.shiga.jp/lake2001/japanese/index.html>

## 第10回 生態学琵琶湖賞

第10回生態学琵琶湖賞は、本年5月22日に応募が締め切られました。本賞では、2名の研究者を表彰し、滋賀県知事から賞状と500万円が贈られます。受賞者は本年8月に決定され、10月に授賞式が開催されます。詳細についての連絡先：滋賀県庁琵琶湖環境部環境政策課内「生態学琵琶湖賞」事務局

〒520-8577 滋賀県大津市京町 4-1-1

Tel: 077-528-3451 Fax: 077-528-4844

E-mail: de00@pref.shiga.jp

ホームページ: <http://www.ilec.or.jp/prize/j-index.html>

## 新刊案内

## 今後の会議

オーストラリアの淡水の自然環境－プロセスと制御

Andrew J. Boulton, Maragaret A. Burock (Gleneagles 出版)

ISBN: 1-875553-05-3

本書は、重要な生態学的過程を説明するため、オーストラリアの例を使用して、内陸の淡水と塩水の物理、化学、生物学的な特徴を記述します。本書の主題はオーストラリアの湿地とそれら集水域の環境汚染の兆候を取り扱うより、生態学的過程の理解と個々の事例の検討の必要性にあります。

陸水学－1999年第9回IHPトレーニングコースのための教科書

寺井 久慈編集

(名古屋大学大気水圏科学研究所)

ISBN: 4-9980619-1-7

本書は1999年の7月、8月に名古屋で行われた第9回IHPトレーニング

コースのために用意されました。本書の内容は生徒が陸水学の基礎と最新の知識を短い一定の期間で習得することが出来るよう、選択・構成されています。

湿地の未来－第5回のINTECOLの世界湿地会議からの寄稿文

J. McComb と J. A. Davis 編集 (Gleneagles 出版)

ISBN: 1-875553-04-5

本書は完全な招待公演記録を掲載しています。そして論文は招待公演のあった、多くのシンポジウムと特別な講習会の研究部門と管理部門から選択されました。

本書は湿地生態学者と管理者に旺盛な興味をわかせることでしょう。そして陸水学者、水資源学者、湿地の未来に興味や関心のある方全てに対しても同様の興味をわかせることでしょう。

給水と水質

日時: 平成12年9月12～13日

問合先: J. Oleszkiewicz 教授

電話: 48-12-423 0855 (61)

FAX: 48-12-421 8199

Eメール: Oleszkie @cc.

umanitoba.caoffice @

lemprojekt.com.pl

URL: <http://www.lemprojekt.com.pl/water2000/>



INTERNATIONAL LAKE ENVIRONMENT COMMITTEE FOUNDATION

Secretariat

1091, Oroshimo-cho, Kusatsu-city, Shiga 525-0001, Japan

Tel: +81-77-568-4567

Fax: +81-77-568-4568

e-mail: info@mail.ilec.or.jp

URL: <http://www.ilec.or.jp/>

財団法人 国際湖沼環境委員会事務局

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

TEL: 077-568-4567 FAX: 077-568-4568